シリーズ 探訪 わが町文化財 その133

明恵紀州遺跡と中西正雄

明恵上人の一番弟子であった喜海（きかい）は、上人が亡くなった4年後の嘉禎（かてい）2年（1236年）に、上人の修行地に生誕地を加えた8カ所に木製の卒塔婆（そとば）を建て、上人の遺跡として後世に伝えようとしました。この遺跡は八所遺跡と呼ばれ、その内の7カ所が明恵紀州遺跡として国の史跡に指定されています。ここで紹介する中西正雄氏（1898年～1989年）は、有田川町糸野の出身で、戦前から明恵紀州遺跡の顕彰に生涯をかけた郷土史家でした。

中西氏は、明治31年（1898年）に生誕し、師範学校を卒業後、教師の道へと進み、宮原尋常高等小学校学長や丹生小学校長、鳥屋城国民学校長などを歴任しました。終戦を機に48歳で教職を辞した後は、家業の農業に従事しながら明恵上人や地域史の調査研究に精力的に取り組み、金屋町文化財保護委員や金屋町誌編さん委員を務めました。「公民館報かなや」では、10年間にわたって明恵上人の長期連載を行うなど、普及活動にも尽力しています。中西氏は、早くから明恵上人や地域史に対する関心を深めていたようで、大正9年（1920）和歌山県師範学校を卒業して田殿小学校へ赴任するや、明恵の修行地の中で所在が不明となっていた崎山遺跡と神谷後峰遺跡の調査を始めました。調査の結果、崎山遺跡の所在は確認できませんでしたが、神谷後峰遺跡については古老から「上人谷」の地名を聞き取り、船坂の地で田の畔に埋もれた卒塔婆を発見するに至りました。中西氏が残した調査記録は、今日においても明恵紀州遺跡を研究する上での基礎資料となっており、特に戦前に撮影された写真は貴重です。

昭和4年（1929年）、和歌山市在住で明恵上人の調査研究を進めていた浜田康三郎氏と出会ったことが大きな転機となりました。中西氏と浜田氏は、八所遺跡の荒廃した状況を憂い、明恵上人七百周年忌を機に、史跡指定を目標とした活動を展開していきました。中西氏らは現地調査と史実の研究にとりかかるとともに、遺跡の保存と遺徳の顕彰を志す同志を広く募りました。中西氏らの行動が動機となった史跡指定は順調に進み、昭和6年（1931年）6月3日には「明恵紀州遺跡率都婆（そとば）」として国史跡の指定が実現することになりました。今日、明恵紀州遺跡が史跡として保護されているのは、先人たちの明恵上人を思う熱いまなざしがあったからに相違なく、その功労者の一人が中西氏であったと言えるでしょう。

吉原遺跡で説明する中西正雄氏

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL https://www.town.aridagawa.lg.jp